

ハーバード大学はMAGA 魔女狩りを歓迎し、狩られる側になる

スティーヴン・ギリス著、脇浜義明訳 Mundo Obrero Workers World、2025年4月24日 *脚注は訳注

全米の、とりわけマサチューセッツ州の民主党指導部一連邦議会から州知事、ボストン地区の市長や市議会に至るまで一は、トランプ政権の大ニュースになる攻撃に「立ち向かう」ハーバード大学カンパニーを支持している。これを書いている時点で、トランプは連邦政府補助金、課税対象にならない非営利事業の地位、すべての学生ビザをハーバード大学から取り上げるぞと脅しをかけている。

資本主義リベラル民主主義の砦であるケネディ・スクール（ハーバード大学公共政策大学院）など高等教育部門を奪うぞという脅しは、530億ドル以上になる世界最大のハーバード大学寄付金をも左右するものである。また、ハーバード大学はボストンで最大の不動産有価証券を持っており、広範な病院ネットワークを運営し、住宅や研究施設を所有している。

問題は、学生人口の4分の1にあたるほぼ7000人のビザ学生が年間に払う100,000ドル以上の金額（授業料、部屋と食事代）に加えて、連邦政府補助金、病院、バイオ技術企業、大手製薬会社、軍産企業、営利または非営利高等教育機関からの契約金数十億ドル、そして数万人の従業員の生活が脅かされていることである。

いったい、どうしてMAGA（米国を再び偉大にする）ホワイハウスと、ネオリベラル・グローバル支配階級エリートを何世代にもわたってを生産してきた名門大学とが対立するようになったのか？

ハーバード大学のクローディン・ゲイ¹への政治的リンチが門を開けていた

2024年4月1日、アラン・ガーバー学長の大学関係者へのEメールは、大学は親パレスチナ学生、教員、職員の「反ユダヤ主義」調査する司法省を「歓迎」し、それに「従う」と述べていた。(@harvardundergradpsc) つまり、ガーバー学長とハーバード大学カンパニーは、トランプが大統領になる前から、「反ユダヤ主義」をイスラエル批判と同じとするトランプ政権の考え方を学生指導部規定にして、学生運動を弾圧していたのである。

ガーバーが学長になったのは、億万長者のヘッジファンドCEOでハーバード大学への多額寄付者で熱烈的シオニストであるウィリアム・アックマンが、2023年10月に、当時の学長クローディン・ゲイを首にせよというキャンペーンを始めたときだった。この黒人女性としては初めての学長は、ハーバード大学学部生パレスチナ連帯委員会(HUPSC)の指導学生を懲戒し、イスラエルの虐殺に抵抗するパレスチナ人の戦いを非難したが、後にそれはシオニズムへの貢献としては不十分だと、ホテル業界の大物のペニー・プリツカーやその他の大金持ち理事によって見做された。

(workers.org/2024/01/76094)

4月2日、大学から認められていない「占領からの解放を目指すパレスチナに連帯するハーバード大学学生」(HOOP@harvardoop)の300人以上の学生と教員が、外部の人間が入らないように大学警備員がロックダウンしていた大学中庭で抗議活動を行った。抗議集会で学生活動家が「ガーバー学長が大学をファシズム化している」と非難した。これに対してガーバーは、大学はトランプの政治的魔女狩り要求に従うとして、直ちにHUPSC（HUPSCは4月2日抗議の主催者ではなかった）を、キャンパスでメガホンを使ったとして、1年間の活動停止処分にした。そして、大学に反抗すれば学生自治会活動を全面的に禁止するぞと威嚇した。

しかし、ガーバーのHUPSCやその他の多くの学生グループのパレスチナ支持活動を封じる懲罰処分は、ホワイハウスを満足させなかった。ホワイハウスのMAGA勢力は、2015年3月25日に、国土安全保障省と移民税関捜査局の暴漢にタフト大学のトルコ人学生リユーメイサ・エズテュルクを襲わせ、逮捕・拉致させた。彼女は移民税関捜査局の拘留所を点々とたらい回しにされた。また、移民労働者をルイジアナやエル・サルバドルの強制収容所に閉じ込めた。その勢力が学生を、特にビザを持った外国人学生を、弾圧せよとハーバード大学に要求しているのだ。さらに彼らは親パレスチナ学生や教員をリストアップして提出せよと要求し、「DEI（多様性、公平性、包括性）プログラムを廃止せよ」と要求している。（2025年4月11日付のトランプ政権からガーバーとプリツカーへの書簡）

¹ 2023年7月1日に第30代ハーバード大学学長になった黒人女性。黒人としては最初、女性としては2番目の学長。

ハーバード大学はヒーローではない

ハーバード大学のフェローやボストンのリベラル・エリートは自分たちハーバード大学カンパニーへのトランプ政権の攻撃に驚き、そして腹を立てた。4月12日、マサチューセッツ州ケンブリッジ市議会が一晩で準備した公式の抗議集会がハーバード大学で行われた。集会はハーバード大学カンパニーにトランプの横暴な要求に「立ち向かえ」と呼びかけた。翌日、『ボストン・グローブ』の第一面は「ハーバード大学、トランプに抵抗！」という欺瞞的な記事で飾られた。

HUPSC と「パレスチナを支援するハーバード大学ユダヤ人」の指導者バイオレット T. M. バロンは、4月15日のハーバード大学生新聞『ハーバード・クリムゾン』のコラムで、1年半の間ハーバード大学当局から抑圧されてきた学生、教員、職員の思いを書いた。「最低限のことをしたからといってハーバード大学を賞賛するな」と題する論説文で、バロンは白黒をはっきりさせた。

事実上、トランプ政権から公式に命令されないうちに、アラン M. ガーバー学長
(1976年卒) は、トランプ政権がハーバード大学に望むことの多くをすでに
実現していた。

論説は、「ひと月間西岸地区のビルゼイト大学の中傷キャンペーンをやって、ビルゼイト大学との学術的パートナーシップを断ち切り、パレスチナばかりを重視すると非難して中東研究センターの指導部を解雇し、反ユダヤ主義的と非難してハーバード大学神学大学院の宗教・紛争・平和イニシアチブ (RCPI) を停止させ、RCPI の副所長であったパレスチナ系米国人教授を首にし、明確な根拠を示さずにハーバード大学学部生パレスチナ連帯委員会を保護観察処分にした・・・」と説明した。そして結語として、

誤解しないで欲しい。ハーバード大学がトランプ政権の要求への同意を拒否
したことは正しいことだ。しかし、それだからといって、大学当局が学生
活動を弾圧し懲罰したことが帳消しになるわけではない。

労働協約における DEI の撲滅がハーバード大学カンパニーの次の目標

2023年10月7日のアル・アクサ洪水とそれに続くイスラエルのガザ・ジェノサイドの数年前、アックマンとアイビー・リーグのウォール街億万長者 グループー アックマンの配偶者でMIT のデザイン学者でイスラエル空軍の中尉でもあるネリ・オクスマンも含む ー たちは、ハーバード大学の多様性・公平性・包括性を推進するDEI プログラムを廃止する運動を始めた。DEI は1960年代と1970年代の公民権運動で黒人、ラテン系、先住民学生が勝ち取ったアフーマティブ・アクションによる優先入学とカリキュラムの名残りである。

アフーマティブ・アクションを壊滅させる2023年の最高裁判決で、そのプログラムはごく僅かしか残っていない。ハーバード大学の調理関係現業員労働組合を長年指導してきたエド・チャイルドによれば、DEI で残っているものは16,000人以上の現業労働者の労働教協約の中でまだ生きているが、ハーバード大学カンパニーはそれを潰すことを目標にしている。「調理関係現業労働者の労働協約の中には、黒人、先住民、移民労働者等の雇用を促進する言葉、LGBTQ 労働者の生活を豊かにする言葉、トランスジェンダー労働者雇用を擁護する言葉、帰国すれば危険になる国の労働者を保護する一時的移民ステータス (TPA) を提供する言葉、人種差別的で女性差別的で偏見を持った雇用主から労働者を守る言葉があります」とチャイルドは語った。彼は

新労働協定に入るときにハーバード大学カンパニー弁護士が我々の組合に言ったのは、まさに今述べたような文言、我々が数十年間闘って勝ち取ってきた虐げられたものの権利を守る文言を除去しようという大学当局の目的です。今こそ労働運動、LGBTQ運動、パレスチナ連帯運動、反戦運動が団結して、ハーバード大学やトランプ政権のファシスト的攻勢と闘うときだ。彼らは大学や国中の労働者の権利を破壊しようとしている。

と強調した。